

【評価実施概要】

事業所番号	0174700856		
法人名	有限会社 グループホームあさひの里		
事業所名	グループホームあさひの里		
所在地	中川郡本別町柏木町156番地1 (電話)0156-22-4387		
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット		
所在地	札幌市中央区南1条西5丁目7 愛生館ビル601B		
訪問調査日	平成20年6月27日	評価確定日	平成20年8月18日

【情報提供票より】(平成20年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)15年9月1日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9人
職員数	10人 常勤 5人 非常勤 5人 常勤換算 11.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造モルタル造り 2階建ての 1階 ~ 2階部分
------	-----------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	9,000~15,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		800 円	

(4) 利用者の概要(6月27日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	0名	要介護2	3名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 89.3歳	最低	82歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	本別町国民健康保険病院、 賀陽歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は国道242号線に接する閑静な住宅団地の一角に位置し、付近に本別公園がある。本別町唯一のグループホームは、指定認知症対応型通所介護や短期利用共同生活介護事業所の指定も受けている。利用者はゆったりと、のんびり暮らしている。当事業所登録のディサービスの人が自由に出入りし、利用者と一緒に日々の娯楽を楽しんでいる。管理者や職員は質の高いケアサービスを行っており、地域や行政との交流も深く、事業所として信頼されている。
--

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善事項の、行政や医療機関との連携について努力しているが、医療機関とはスムーズな連携が取れるよう引き続き協議している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員が参加してケアの実態を見据えており、自己評価の結果を見直して質の高いケアの実践に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議はおおむね2ヶ月に1回実施している。主な討議内容は、事業所の運営状況、利用者の状況、自己評価や外部評価の結果、職員の研修状況、消防訓練など報告し、意見や要望について話し合っている。会議内容は議事録にまとめ、職員会議でさらに協議し、質の高いケアの改善に取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月の利用料の支払いは直接事業所へ持参とし、全家族と面談して利用者の近況や金銭出納等を報告したり、家族からの意見や苦情を受け付けている。運営推進会議に利用者や家族の代表も参加して意見を述べている。会議録の内容は利用者全家族に報告している。苦情相談窓口が事業所の他に、国や道そして町役場に設置されていることを知らせている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町や町内との交流を深めており、町や自治会から行事に参加の誘いもあって積極的に参加している。徘徊などにより行方不明が出て、町内に行方不明者SOSネットワークが整備されている。

評価結果(詳細)

NPO法人 福祉サービス評価機構 Kネット

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が家庭的な環境のなかで、地域の一員として暮らし続けるために、質の高いケアサービスを受ける理念が掲げられている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が利用者との関わりについて理念を念頭にサービスに努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町や自治会の行事に利用者が地域となじめるように積極的に参加し、又「認知症」の理解を深めるために自治会主催の「認知症予防教室」に講師として参加するなど交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員が参加してケアの実態を見据えており、自己評価の結果を見直して質の高いケアの実践に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね2ヶ月に1回実施しており、運営状況や利用者の状況、自己及び外部評価の結果を報告して討議し、結果については全家族や全職員に報告し、職員会議で結果を討議して改善に取り組んでいる。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の福祉事業である「健康長寿まちづくり会議」や「女性未来会議」などに参画し、町との交流を深めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の利用料の支払いは直接事業所に持参させて訪問の機会を増やしており、家族の訪問時に事業所での暮らしぶりや、金銭出納帳内容を報告したり、家族からの要望や意見を聞く取り組みをしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に、利用者や家族の代表をメンバーに入れて意見を反映している。苦情相談窓口は、事業所の他に国や道そして町役場に設置していることを知らせている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設より異動職員は1名であったが、新採用の職員について研修を実施し、利用者と問題が起きない取り組みをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>北海道グループホーム協議会や十勝グループホーム協議会に入会し、同協議会開催の研修会に参加させ、職員のモチベーションを高めている。研修結果はその都度職員会議等を通じ報告させている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣町村のグループホームと協議して、スタッフ交換研修やスタッフ交流会を開催し職員の質の向上に努めている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用希望者には家族と面談し、本人の希望を重視して、ディサービスやショートサービスを体験させ、馴染みながら入所するように取り組んでいる。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員と利用者は共に暮らす仲間として信頼関係ができており互いに笑顔で接している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の意向を把握するために、職員がローテーションで担当して馴染みの関係を深くし、意向が実現するように取り組んでいる。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人の意向や家族の意見を参考にしながら、職員会議でアセスメントを作成し、それを基に介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>職員は日々の暮らしの中で利用者の状況の変化に気づいたときは、毎朝のミーティングにおいて報告し、変化に対応したケアを行い、職員会議においてさらに検討して介護計画の見直しを行っている。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>地域で暮らす認知症の人や、その家族の要望によりデイサービスやショートステイ等の支援を行っている。利用者の通院や美容院への送迎支援も行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	利用者や家族の要望するかかりつけ医に受診できるように支援している。緊急の場合は救急車を要請し、救急担当病院に搬送している。町外の医療機関に受診希望の場合は家族に依頼している。		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合について利用者や家族と話し合っている。</p> <p>終末期について利用者の家族が担当医と話し合っている。</p>	○	利用者が重度化した場合の対応について利用者や家族、担当医と話し合い、重度化に伴う意思確認書を作成するよう期待したい。終末に対する対応指針を家族や医療機関と話しあって定めるように期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	職員は利用者の尊厳を遵守し、プライバシーを損ねないよう言動に注意している。職員会議において常に尊厳について研修し、秘密保持の徹底を図っている。		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	利用者一人ひとりの生活のリズムを壊さぬように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は、食材の買物、調理、配膳、後片付けなど利用者の出来ることを手伝えるように支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者や家族の希望に沿うようしているが、体調の変化を考慮しながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの個性を活かした趣味や特技ができるようにし、日々楽しく過ごせるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日はできるだけ散歩など外出するように支援している。少人数での外出のときは利用者宅を訪問している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の施錠は利用者の自主性にまかせている。玄関は施錠せず、利用者、ディサービスやショートステイ利用者が自由に出入りできるように取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	消防訓練は春秋の年2回実施し、消防署や町内の協力を得ている。	○	消防署や町内の協力を得て夜間の消防訓練を行い、避難の誘導や避難場所の確認など実施するよう期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	利用者の日々の食事量や咀嚼、水分摂取量をチェックして記録し、バランスの取れた食事となるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	1階のロビーの天井は吹き抜けで明るくて開放感があり、季節の花や観葉植物を置いている。季節ごとの飾りつけ（雛飾り、クリスマスツリー）などをして、家庭的な雰囲気ができるよう取り組んでいる。		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	各居室にはそれぞれ馴染みの家具やベットを置きその人らしく過ごせるように工夫している。		

■は、重点項目。